

図書 紹介

学生・研究者のための 伝わる! 学会ポスターのデザイン術

ポスター発表を成功に導くプレゼン手法

著者：宮野公樹（京都大学学際融合教育研究推進センター）

発行：(株)化学同人／〒600-8074 京都市下京区仏光寺通柳馬場西入ル東前町 408／

ℓ075-352-3711(編集部)／B5判／144頁／価格 1900円(税別)／

2011年11月30日発行

学会の研究発表は当節どこもポスター形式が主流を占めている。ポスターも以前は B4 用紙に印刷したものを会場でセットアップするスタイルが多くみられたが、最近は 1 枚刷りのポスターが多くを占め、そのデザインも多種多様である。

本書は「ポスター」のデザインについて解説した珍しいマニュアル本で、第 1～4 部からなり、実際のポスター例を修正しながら、参加者の目をひき、立ち止まらせるポスター作りの極意を紹介している。

第 1 部 口頭発表とポスター発表の違いとは？

第 2 部 研究内容の構造化とデザインの原理原則

第 3 部 ポスター修正ライブ!!(12 点)

第 4 部 ポスター発表全般に関する Q&A

サブタイトルをみていくと、第 1 部は、研究者に求められている「伝えられる能力」、プレゼンスキル向上は「伝える能力」向上のためだけではない!及びポスター発表とは何か? である。

第 2 部は、研究内容の構造化パターン（フローチャート形式／プロセス形式／コンセプト形式）、デザインにおけるたった 1 つの原理原則（すべてに「意図」がありそれを「操る」ことで「伝える」）、3 つの技術(コントラスト:伝えたいことだけ目立たせる／グルーピング:見えない”くくり”を意識する／イラストレーション:文字でなく図解で伝える)、“3 つの技術”の行きつくところ（理論とデザインを一致させる）である。

第 3 部は、実際のポスター例を **Before-After** 形式で紹介している。その 12 例は、1.必要などころに必要な色を!、2.”脱“文章による表現!、3.”脱“安易な配置!、4.細かな配慮で相手目線のレイアウトを!、5.データの配置に工夫を!、6.ポスター全体を 1 枚の絵に!、7.大胆な構図でインパクト大!、8.ときには文章で強烈にアピール!、9.独りよがりのデザインは危険です.相手目線で!、10.わかりやすく伝えたい気持ちがポスターをよくする!、11.

効果的な写真1枚は1000文字の文章に勝る!、12.見た目作りは中身作り!であり、それぞれの例において **Before** と **After** の間に修正ポスター4枚を挟み込んで計6枚を1セットとして順次修正し、分り易く良くなっていくのが目で見えるので、大いに参考になる。

第4部では実際のポスター発表会場で役立つポスタープレゼン全般に関する **Q&A** である。構成・情報量では、わかりやすいポスターとは、ポスター内容を考える手順は?、ポスターで”論理構造を伝える“とは?、結論を先に書いてもいいの?、ポスターに興味をもってもらうには?、よい成果なのになぜ伝わらないの?などの9題である。アピアランスでは、効果的な強調のしかたは?、”伝達力を高める“工夫とは?、字の大きさやフォントの選びかた、色を減らすと地味になるのでは?、効果的な写真の使いかたは?など7題である。発表のしかたでは、どうやって声をかければいいのか?、どうすれば話が長く続くでしょうか?、話し方(トーク)のコツは?など5題である。さらに追加するとすれば、口頭発表のような詳細な話をしない、小さな声でしゃべらない、特定の人と議論を続けない、親しい聞き手と日常会話をしないことなども挙げるであろう。

日本防菌防黴学会においても「ポスター賞」が第39回年次大会(きゅうりあん(品川区立総合区民会館)、平成24年9月11~12日)から新設されることになった(詳細は本誌3号の会告参照)。研究発表はデザインではなく、その内容であるが、「外見は一番外側の中身である」と著者が述べているように見た目も大切な要素の一つである。本書が会員諸氏のポスター作成のため、またポスター賞獲得のための一助になれば幸いである。ちなみに当会が従来使用してきたポスターボードのサイズは千里ライフサイエンスセンター(大阪)が90×210 cm、きゅうりあん(東京)が90×180 cmであり、一枚刷りの場合はA0(約84×119 cm)が適当であろう。(学会事務局)